

KSKR だいかれん

公益社団法人大阪府精神障害者家族会連合会(大家連)

一九九六年五月一日 第三種郵便物承認 毎月(一・二・三・四・五・六・七・八の日)発行

都立松沢病院

新型コロナウイルス感染専用病棟の1年

～E.T.V特集

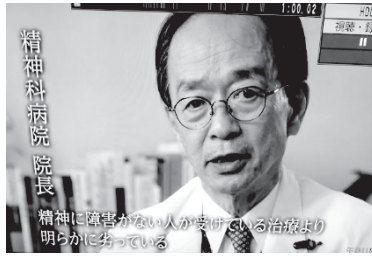
「ドキュメント 精神科病院×新型コロナウイルス」から

Eテレ7月31日放送

副会長 大野 素子

昨年四月から一年間 松沢病院は東京都内中の精神科病棟の新型コロナウイルス感染者の治療を引き受けてきました。

院長 斎藤正彦医師(本年3月末定年で退任)は「日本の多くの精神科病院では他の病気になるたとき受ける医療は精神に障害のない人が受ける医療より明らかに劣っている。」と述べています。



当時院長 斎藤正彦医師

入院者の証言や公開されることがない精神科病棟の現場撮影と取材の目線は確かです。私宅監置を認める1900年の発令された「精神科特例」(少ないの亡霊と「精神科特例」(少ない医療スタッフで安上がりな医療を認める)が生きている現実、置き去りにされた精神医療の抱える真実に私たち家族は見えて見ぬふりをするわけにはいきません。

人知れず感染が広がった

ナレーションでは「ほとんど報道されないまま、人知れず感染が広がっている場所、精神病院」と。全国で

目次

◆ 都立松沢病院	
◆ 新型コロナウイルス感染専用病棟の1年	1～2頁
◆ 大阪市との意見交換会	3頁
◆ 精神保健福祉講座から	4～5頁
◆ 家族の思い	6頁
◆ P.S.Wのミニ知識	7頁
◆ 賛助会費報告・編集後記	8頁

145の精神科病院で4600人余りもの感染者を出していたこともわかりました。(大阪精神医療人権センター調べ 資料提供)

都内X病院は古い病棟では保護室以外に個室がなく、陽性者と陰性者を一緒に病棟ごと閉じ込め「レッドゾーン」とし、看護ステーションを「グリーンゾーン」としていました。結果、4つの病棟全部と職員のクラスターが広がりました。看護職員は入院者をレッドゾーンに閉じ込めるのは心苦しかったと語ります。

Y病院では、陽性者を大部屋に集めて外から南京錠をかけて、診察せずに閉じ込めていたとのこと。そこではポータブルトイレを置き、皆の前での用便を余儀なくされていたらと入院者は証言しています。

保健所指導は？

Y病院には複数回保健所が指導に入っていたのですが。閉じ込められていた入院者の証言では「保健所の人 came 来た時は南京錠を外して、保健所の人帰るとまた取 (p2に続く)

後日 東京都は指導の詳細について回答を拒否
理由は「病院の運営に支障が出る可能性があるため」

テレビ画面の字幕

り付ける。見てほしいから、コンコンコンってノックしても保健所の人は通り過ぎて行っちゃう。」保健所指導を主導した東京都の驚くべき回答は字幕の通りです。誰のために保健所指導があるのでしようか。

日本の精神科医療の病根

日本精神科病院協会会長 山崎學氏は「精神科病院は医療を提供するだけじゃなく社会の秩序を担保しているんですよ。町で暴れて

いる人とかを全部引き受けている。医療と社会秩序の両方を精神科医療に任せておいてこの点数(安い診療報酬)なんですかといつも言っている。一般医療は医療するだけでしょ。こっちは保安までも全部になっているわけでしょう。私たちが断ると、一番困るのは警察だとおもうよ。警察と保健所が困るだけだね。」と平然と言い放つのは開いた口がふさがらないのと同時に怒りがこみ上げてきました。

番組中でも触れていた、1950年代に始まった「隔離収容政策」は改まるどころかこうして脈々と生き延びている。大阪の大和川病院事件から昨年の神出病院事件まであとを絶たない病院内の虐待事件の根っこはここにあるのです。心意気高い精神科病院もあるだろうけれど、障害者権利条約からはるかかけ離れて、時代の時計が逆回転しているのが日

本のほとんどの精神科医療ではないだろうか。

松沢病院では

コロナ感染専用病棟では精神科医に加え、感染症専門医が治療にあたっています。医師も看護スタッフも一人一人に声をかけます。「おなかすいたー」と叫ぶ入院者に「ごはんまであと一時間半くらいかな。しっかり食べてね。約束だよ。」「はい」「ありがと、ありがと(笑)」とのんびり優しく声をかける、笑いのある当たり前の会話はほほえましく、ほっとさせられます。入院者と家族はタブレットで面会します。

退院後に帰る場所は？

治療後、再び劣悪な精神科病院に帰ってゆくことに院内の医師たちからは激論が巻き起こります。しかしやはり今は元の劣悪な病院に返すしかない現実がありました。

ほとんど病状が回復した62歳の女性はかつて家庭を持っていて「いいときもありましたよ。おいしいご飯を作って食べさせて。おいしかったですよ。でも息子は帰ってくるなっという。そこ(病院)で死んでおけという。」と淡々と語り「もしも私が家を建てたら」と小坂明子の「あなた」という歌を口ずさみ、そしてやはり元の病院へ帰ってゆく姿には胸が張り裂けるおもいでした。

「社会には弱い人がいて、僕らの社会はそれに対するセーフティネット(個人を救済する

公的な仕組み)をどんどん細らせているのだということをもう一度思い出すべきなんだと僕は思う」と齋藤院長(当時)は最後に少し涙ぐみながら語っていました。退任後はいち臨床医として入院者に気さくに優しく声をかけながらベッドを回っておられます。

*この番組はNHKオンデマンドでネット視聴できます。

みんなねつともこの番組放映を受けて「日本の精神科医療の実際を皆さんに知っていただき、『みんなねつと精神科医療への提言』について一緒に考え、発展させていきましょう。」とのコメントを発表しました。

みんなねつと東京大会全体会(10月7日)で齋藤先生の講演があります。



身体拘束ゼロを目指す「都立松沢病院の挑戦」齋藤正彦著 岩波書店 は、日本の精神科医療の良心ともいえるべき著書です。「ホスピタリティー」(思いやり・こころからのおもてなし)の項では齋藤先生が2012年に着任した途端、落ち葉の溜まる通路清掃が旧来の病院業務ではままならず、自ら通販で竹ぼうきと塵取りを購入し、一人清掃を始められると、最初に手伝ってくれたのは自殺未遂で足の悪い方で、いつの間にか出入りの協力企業に加わるようになったとのエピソードを紹介しております。

大阪市で意見交換会がはじまりました

(東成家族会 合田享史)

大家連が提出した「2020年度 大阪市への要望」について、7月8日、大阪市との意見交換会を大阪役所で持ちました。要望の中から「630調査結果の開示」「PCR検査の拡充」「市営住宅自治会のあり方」の3項目に絞って話し合いを行いました。



① 630調査結果の開示

《要望》 大阪市による精神科医療機関への630調査結果の個別医療機関ごとに開示の実現。630調査は任意回答であるゆえに、公表できないとの2019年度の回答があったが、個人情報の特定ができない形である報告書形式であり、公文書の公開義務を負うものとみなされる。(文言を一部省略)

これに対して、市は「平成30年度には国からの依頼の際にこれまでなかったような表現の部分があり、検討した結果、非公開という回答をしたが、その後、国の依頼文にその表現がなくなったので、基本的には従来通りの形で公開できると思う」と回答しました。

② PCR検査の拡充

《要望》 新型コロナウイルス感染症早期対応による陽性者と陰性者を分離し、社会活動活性化のためのPCR検査実施拡大の実現(細項目は省略)

これに対して、市は現状の検査体制を次のように説明。①市内5カ所に設けた検査場(ドライブスルーやウォークスルー方式で検査実施)、②保健所からの依頼に基づいて対応する「帰国者・接触者外来」の医療機関、③保健所を介さずに地域の診療所などから直接受診調整ができる「地域外来・検査センター」の医療機関、④大阪府が指定する「診療・検査医療機関」(6月29日現在で市内に614機関。府のホームページに掲載)。

大家連からはワクチン接種にも通じる問題だとして、次のような意見を出しました。

- ・ コロナに感染した時に深刻な状況に陥りやすい当事者と家族が、安心して検査やワクチン接種につながれることを考えてほしい。
- ・ 当事者にはなじみの薄い人との接触が難しい人や、精神科以外のかかりつけ医がない人が多い。日ごろ通院している精神科の医療機関でワクチンを打てるようにしてほしい。



③ 市営住宅自治会のあり方

《要望》 平野区の大阪市営住宅自治会当番に關わる障害者の当番辞退の作文を強要し、挙句当事者が自死されたという障害差別的対応があったことを大阪市として差別解消条例違反であることを事実として認めること、相応の責任ある対応を強く要望する。この自死された事件の反省をもとに、自治会の精神障害者の理解を進める研修を実施すること、また自治会当番の業者代行あるいは免除の実現。

これに対して、市は「当事者間で係争中のことであり、行政として公平性の観点から、障害者差別的な事案であるかについて明確な見解を述べることは難しい」「自治会は任意団体であり、本市は管理・監督する立場にはない」と述べつつ、障害者理解の啓発としてチラシを作成し、自治会と基幹相談支援センターに配布していることを回答しました。

大家連からは次のような意見を出しました。

- ・ 市は市営住宅に対して自治会を組織しなさいと言っているわけだから、関係がちゃんどある。今後こんなことが起こらないよう、市から自治会に積極的に働きかけるべきだ。
- ・ これは差別というよりも虐待である。
- ・ 障害者に対する偏見があるから、こういう事態が起こった。市としても議論し、障害者の理解を深める取り組みにつなげてほしい。

2021年度

大家連精神保健講座②のご報告

(理事 佐野朋慶)

◇テーマ 「8050問題を考える」

講師 池上正樹氏

(フリージャーナリスト、

全国ひきこもり家族会連合会理事)

◇7月24日(土) 13時30分～16時

エル大阪 6階 大会議室にて

●「ひきこもり」とは何か？

第三者とのつながりがない(持てない)状態つまり社会的孤立状態。中高年のひきこもりは61万人。「職場になじめない」など就労が要因55%。社会的ストレスや精神疾患・発達障害等がある。約6割はこれから働きたいと思っているので「ひきこもりは働く意欲がない」は、誤ったイメージである。ひきこもりに至ったきっかけは、ハラスメント、働きすぎ、いじめ、暴力、失職、解雇、介護、転勤、虐待、病气、災害、事件事故等多種多様であり一人一人違う。安心できない社会から自分の命を守るために家に待避する。



●長期高齢化と8050問題

「ひきこもりは犯罪者予備軍」の偏見や誤解から、家族が地域で見せしめにされ、息を潜めて生活するようになる。家の恥と感じ何処にも相談できず、家族全体が地域で孤立する。孤立することにより適切な判断ができにくくなる。ひきこもらざるを得ない社会を、私たちはつくっているのではないだろうか。

●求められる支援のあり方

自治体の意識に、温度差があり本人や家族

の心情の理解不足、学習不足、縦割り、異動引継ぎの雑さで傷つけているし、取り残されている。求められているのは「就労」ではなく、悲嘆に対するケアであり、不安の払しょくが大事である。「自立支援」を謳う引き出しビジネスは、極悪である。

●家族は「ひきこもり支援」のキーポイント

どんなにひきこもっている本人たちは成長している。ひきこもりを治すのではなく、まずひきこもりながら生き延びる場を大切に

●家族が孤立しないための「家族会、家族支援の重要性について」

家族が社会から孤立してしまえば、本人と社会のつながりは生まれにくい。家族が家族会で第三者とつながり安心感を得ることで、家族が主体的に変わっていく過程が、当事者の変容にもつながる。

★この講演を視聴したい方は、8月15日以降にYouTubeで公開いたします。大家連



写真提供 三枝会家族会 東 泰敬さん

のホームページからご覧ください。また大家連のYouTubeチャンネルができましたので、このQRコードからもご覧いただけます。来年3月31日までです。また地域家族会にDVDを貸し出します。



↑大家連のYouTubeチャンネル

参加者アンケート集計報告

(相談役 奥村 勲)

◇出席者総数…42名 内家族会出席者 35名
家族会以外 7名

◇アンケート提出者数

父親…3名 母親…10名 兄弟姉妹…1名
地域支援者…2名 合計 16名

年齢別 80歳代…1名 70歳代…5名
60歳代…7名 50歳代…2名
40歳代…1名

◇先生の講演について (複数回答有り)

- ・興味深かった 9名
- ・分かり易かった 11名
- ・難しかった 0名
- ・時間が足りなかった 0名

《参加者の感想》(集約抜粋)

●ジャーナリストの立場から社会に分かりやすい提示をしてほしい。

●引きこもりとらえどころの難しい言葉に、初めて向き合う事が出来ました。単に生活的に家庭に閉じこもるだけでなく、社会の中で「ふつう」に生きているつもりなのか。今この社会全体が本當の意味で開かれた社会 (次ページに続く)

で無いだけに、このテーマは他人事ではないと重く受け止めました。

● 久しぶりに講演会を聴き少し元気を貰いました。

● 「引きこもり」の世界が大変なものだと解り、簡単に解決できない事だと思いました。気持ちが悪くなりしましたが、もつと深く広く勉強せねばと思いました。最後には、明るい見通しも見えるお話だったので希望が持てました。「統合失調症」についても、8050、9060の問題の良い解決方法は無いものでしょうか。

● 統合失調症ですが、引きこもりのお話大変勉強になりました。

● 8050問題が6月に閣議決定されたのはすごい事だと思います。これからも活動して戴きたいです。

● 「ひきこもり」ということで悩んでいるケースがあったのですが、説明を聴いていても納得できる事が多くて、参加してよかったです。実際に自治体で動き出しているスタッフの一員ですが、またここでも話して戴きたいなと思いました。(アウトリーチがメイソンの支援になっていたので、其れとは違う方法が聞けて良かったです。

● とっても丁寧にお話戴き、良く理解できました。先生の心の広いお人柄に感動致しました。私も情熱を持って今の仕事を頑張りたいです。どうぞ今後とも宜しくご指導下さいませ。本当に先生に感謝しています。

● 発達障害の中学生の男子のご相談を受けています。しっかり勉強し、力にならせて欲しいと思います。

● 人生は他者ではなく自分で決める、そういう当たり前の事を忘れかけていました。不安の払しょくをしていますませんでした。良か

れと思つて親は動いていると思つていましたが、私が不安なのであれこれして息子は今まで迷惑だった事だろうと反省しています。今日はとてもこれから役に立つお話を聞いてありがたうございます。

● どんなにひきこもっていても本人たちは成長している。具体的にどんな成長をしているのか、どんな面を成長と見るのか？

● やれることから家族会で研修会を始めて5年になった。社会資源に結び付いた当事者も6名程でした。辛抱強く当事者を信じて、希望を持って臨んだのは良かったのかな。

● 出来る事から兎に角始める事が大事な事と思つた。

● 当事者のバイアスを変容させることは、長い時間と努力を要するので、親が先に諦めてしまう傾向がある。辛抱強く続けることを訴えている。

《今後講座でお聴きになりたいテーマ》

● 当事者の居場所の作り方。

● 様々な支援機関、担当の紹介。どういう風に関われば効果的に分かってもらえるのか

● 発達障害 特に自閉症スペクトラムの障害の子供との関わり合い方について。(成人後の子供)

● てんかんについて 親も未だに理解できない。

精神保健福祉講座③

「発達障害とは何か」

UPPER@DAIKAREN

8月21日(土)に予定されていましたが、新型コロナウイルス感染症状況の悪化にともない、8月

20日、大阪府では府県を超える移動については厳しい緊急事態宣言が発令されました。

この事態を受けて、講師 受講者 スタッフの安全を考えて、急遽講座を一旦中止させていただきますことといたしました。

一部個人情報に配慮しながらデルタ株拡大の状況下でも、多くの方々へ講座を伝えることができる方法を協議した結果、参加希望の方々にオンラインによるZoom会議形式でお届けすることにいたしました。

● パソコン、スマホから参加していただけます。会議の前に参加希望登録が済んだ方にZoomのURLのご案内メールを送信いたします。

● オンライン講座は次のようになります。

● 10月23日(土)午後2時から午後3時30分 Zoom会議形式

● 参加希望

● 大家連 info@daikaren.org にメールでご連絡をお願いしています。

● 「大家連講座③参加希望」「お名前」「メールアドレス」「郵便番号とご住所」この4点の明記をお願いします。

● 締め切り 9月30日(木)

● 定員50名に達し次第締め切らせていただきます。

今後新型コロナウイルス感染症状況をふまえて、多くの会員の皆様に安全に講座を利用していただけるよう、担当者一同慎重に考えながら進めてゆきたいと思っております。

(精神保健福祉講座担当 大野素子)

家族の思い

「難病患者」家族の思い

— 縁とアドバイスに、感謝 —

大阪府箕面市 K・O

手元に、大部の資料がある。

「入院のご案内」との表紙に、入院日…2019年7月9日とある冊子。

「シエーグレン症候群」の診断をうけ、妻が入院することになった、その病院の案内書である。この日までの間、周りの人たちとの会話、かわりをもたせてもらった方の名前や団体、そして、それぞれの方の言葉を記録したものだ。

今日あるのは、ご縁やアドバイスが、あつてこそこの感謝の記憶が詰まったものだ。

入院日の日までは、月に1〜2度くらいの頻度で、かかりつけの医者にも車で通うこと約2年間ぐらいたっただろうか。

「リウマチ治療」の「医者通い」は、薬をもらいながらも、明るく元気になっている妻との、「お出かけ」でもあった。しかし、それにしても、いささか長い期間に、「いつまで通うのかな」との思いだった。

もっとも、私自身は、退職後の、いわば、「毎日日曜日」の身だったので、何の苦も無く、医院からの帰りは、買い物や外食の機会でもあった。

それが、思いがけない転機を迎えたのは、その年、2019年1月の7日だった。新年最

初の病院の開業日である。

いつものように、その医院まで行くと、「当院は、年末に閉院」の看板だった。

突然の事態に、やむなく、以前通っていた医院に出向くことになり、「薬を変えてみよう」とのアドバイスで、それに従ったのはいいのだが、以後、疲労度が極度に増し、「疲れた」、「しんどい」の連発とともに、我が家から救急車に運ばれることも何度かあった。「うつ状態」の心配さえあった。

この間、通っていた眼科医から、「一度、阪大病院へ」との紹介で、大阪大学病院の眼科に診断を受けることになった。

担当医の「シエーグレン症候群かも？」との、ひとりごとのような言葉に、それが、「難病」であることを知り、同じ地域で、こうした家族を持つ人たちのグループに、「助け」を求めることにした。

振り返れば、ここが、大きな転換点になった。歴史のあるこのグループ「みのお笑顔の会」が、私ども夫婦に加わった「大家族」になっていただいたとの思いである。

そこで、紹介をうけた医者との「出会い」が、妻にとつては、「救世主」となった。

説明も明確で、傍で聞く私自身も、「この人なら・・・」との思いにならせてくれた。私も、いろいろと、素人っぽい？質問をしたが、何の躊躇もなく、丁寧に的確な説明をしてくださった。

紹介をしてくださった団体の方の言葉通りの医者であった。

一週間余りの入院で、妻は少し元気と笑顔も

取り戻し、退院。

今では、2〜3か月に一度、二つの病院に通っているが、今では、我が家の小さな菜園での、野菜づくりに余念がない。その担当医さんの、「野菜づくりは、精神的にも良いもの」との言葉に、チカラをもらい、日々を楽しんでいる。思いがけない転機が、いくつかあったが、それもこれも受け入れて、今日を迎えたのは、私という夫以外にも、恵まれた「家族」が関わってくれたおかげ、だと思っている。

※シエーグレン症候群 指定難病53の自己免疫疾患

精神保健福祉講座①

DVD貸出のお知らせ

「今、私たちができること。」

「親なき後」への備えについて

講演のDVDを一か月限定で貸出しています。

お申込みは大家連まで、ファクスで、お名前、郵便番号とご住所、連絡先を明記してください。

大家連Fax 06-6945-6135

精神保健福祉講座④

開催延期のお知らせ

10月9日(土) 開催予定の本講座は、来年度へ延期することとなりました。

PSW(精神保健福祉士)の

ミニ知識

コロナ禍での生活困窮問題・
利用しやすい生活保護制度へ

堺市相談支援ネット

総合相談情報センター 萩原敦子

最近SDGsという文字を目にされたことがありますか?それって何?「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」の略称とのことです。どう発音するのかというトース・ディー・ジーズです。SDGsは、人類がこの地球で暮らし続けていくために2030年までに達成すべき国際的な指針です。国連は持続可能な開発のために17の目標を掲げています。その1番目の目標が「貧困をなくそう」です。

この目標では、貧しい人や特に弱い立場にいる人たちが十分に守られているようにする。自然災害や経済ショックにあうことをなるべく減らし、被害にあっても生活を立て直せるような力をつけるとしています。

貧困の問題は、日本にも無縁とは言えません。日本でも子どもの6人〜7人に1人が貧困だと言われています。貧困の問題は子ども

の学びや生活に影響を与えます。さらに、現在のコロナ禍が続く状況で経済的な問題を抱えている方が増加しています。

「コロナ災害を乗り越える いのちとくらし

を守るなんでも電話相談会」では、昨年4月から2か月に1回のペースで全国30〜70会場

で電話での相談にあたっています。電話相談を受けているのは、弁護士・司法書士・ソーシャルワーカーや労働団体の関係者です。これまで9回開催され、相談件数は10,000件を超えています。非正規労働者・女性・自営業者やフリーランスの人などの仕事がなく

なって生活困窮に陥る人が増加しました。2020年度の生活保護制度の利用申請件数は、前年度に比べて23%増加しています。毎月の推移をみると新型コロナウイルスに対応する最初の緊急事態宣言が出た4月に前年同月比24.9%と跳ね上がりました。

その後、貸付や助成金が支給されましたが、制度が複雑化しています。また、非正規労働者が減少し失業が長期化しています。家賃支払いが困難な方の相談、所持金がほとんどない方の相談も相次いでいます。自治体の相談窓口にも相談者が押し寄せ、手続きが遅れ対応困難になっていた時期もありました。

この状況の中で、厚生労働省も生活保護の活用を積極的に呼びかけています。それは、生活が困窮していても生活保護受給に対する抵抗感を持っている

人が多いためです。親族に扶養照会を求められる、車の所有が認められない、1か月の生活保護基準額(最低生活費と言



います)以下にならないと申請を受理してくれないなどの運用も敷居を高くしています。

現在、生活保護では、緊急事態宣言中は稼働能力活用の判断は保留することとなっています。本来解約が必要な保険についても概ね6か月をめどに処分指導をしなくてよいことになっていきます。また、申請者が扶養照会を拒否したら、扶養照会しなくてよい場合にあらたにか特にていねいに聴取することとしています。こういった柔軟な対応が示されています。

生活保護基準を下回る経済状況にある世帯が実際に生活保護を受給している割合を捕捉率と呼びますが、厚生労働省ではこの捕捉率は23%程度であるとしています。つまり、生活保護基準以下で生活している人が現在受給している人の3倍以上のことになります。

国民年金の老齢年金額や障害年金額が、生活保護基準より低いことも原因としてあると思われまます。コロナ禍以前から本来生活保護が権利であるにも関わらず、十分に活用されていませんでした。コロナ禍で生活に困窮されている方の状況は広がりや深刻さを増しています。外出自粛や授業のオンライン化、人と人がつながるイベントの中止や延期なども続き孤立感が高まっています。アルバイトで生活を支えている学生や若者、シングルマザーや外国人など弱い立場の方が安心して生活できるような生活保護や住居確保給付金などの社会保障制度が改善され利用しやすい制度運用がされるようになることが望まれます。

2021年度の賛助会費報告

年会費をいただきました。ありがとうございました。

賛助会費 (1口3千円/年)として

49人分 49口

(寄附)

大家連へのご支援、大変ありがとうございました。

氏名	地域	寄附
大阪狭山つくし会	大阪狭山市	10,000円
ねや川サナトリウム	寝屋川市	30,000円
たにメンタルクリニック	阿倍野区	10,000円
衛藤房子	淀川区	5,000円

(令和3年6月16日～令和3年8月20日)

編集後記

▼私事、高齢者枠のワクチン接種二回を受けた。左肩には幼児の頃に受けた種痘の跡がかすかに残る。これで天然痘に次ぎコロナウイルスへの抗体が生成されたのかな。

▼コロナ自粛で家族会の集会が中断している。活動の基本である対話の「場」が消えて「会」の存在価値が薄れている。

一日も早くお茶菓子をつまみながらの集会が復活すること期待するところだ。

(編集委員 奥村 昭)

▼メダカを飼うことになりました。以前、友達に「メダカが増えて、誰かいらんか？」と言わ

れた時、「もう生き物はアカン」と即、断つたのに、バケツの中にホテイアオイと水草を入れて心のオアシスと自己満足。ノックして「ごはんですよ」とエサをやる。何回目からは、目が合うような気がする。

今日、珍しく息子(45才)が「メダカどこにいるの?」と言う。場所を示すと「エサやりたい、朝やったの」と思いながら「ひとつまみだけで」とどこにいいのか「可愛いながら」「ワー食べだした」と感激の声。「可愛いな」とポツリ。子どもの心になっている。

私の頭でメダカの兄弟の歌が回りだす。

メダカの兄弟が川の中、

大きくなったら何になる

大きくなってもメダカはメダカ

スイスイ♪

(編集委員 M・K)

▼初めてのことは、誰でも不安に思うものです。私は最近、ちょっとした手術をしました。家族会の友人に「全身麻酔ってどんなん?」と尋ねたり、看護師さんや同じ手術をする同部屋の人とも話し、まな板の鯉の気分で手術に臨みました。手術は無事終了。これで私もりっぱな経験者です。ふと「案ずるより産むが易し」や「可愛い子には旅をさせよ」の格言が思い出されました。成功も失敗も経験です。我が子を心配し守りたい気持ちを、少しずつ手放そうと思いました。

(編集委員 D)



2021年度の共同募金配分金 54.1万円が決定しましたのでお知らせします。

共同募金の寄付による配分金でだいかれん誌の発行が成り立っています。

寄付下さった皆さまに心よりのお礼申し上げます。

又、会員の皆さまには赤い羽根共同募金へのご協力をお願いします

編集人 公益社団法人大阪府精神障害者家族会連合会 会長 倉町 公之
 連絡先 〒540-0006 大阪市中央区法円坂1-1-35 アネックスパル法円坂 (A棟4階)
 Tel 06-6941-5797 Fax 06-6945-6135
 ホームページ daikaren.org だいかれん で検索もできます

振込先 郵便振替 00970-4-72221 公益社団法人大阪府精神障害者家族会連合会

定価 1部100円 (大家連家族会費には購読料を含む)

発行人 関西障害者定期刊行物協会
 大阪市天王寺区真田山町2-2 東興ビル4階

